## 情報公開文書

研究の名称	黄斑円孔術後の短時間 face down positioning と閉鎖率および視機能につ
	いての検討
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者	富山大学学術研究部医学系 眼科学 教授 林篤志
(所属・氏名)	
研究の概要	【研究対象者】 富山大学附属病院および高山赤十字病院で2021年1月1日から2025年4 月30日までに黄斑円孔に対して硝子体手術を受けた全ての患者様
	【研究の目的・意義】 黄斑円孔術後の face down positioning (うつ伏せ体位) 時期については 一定のコンセンサスが得られていません。長時間におよぶ face down positioning は患者様にとって苦痛をもたらします。富山大学附属病院およ び高山赤十字病院では術後 face down positioning をしていただく時間を 基本的に 1~2 時間としていますが、短時間でも十分に黄斑円孔の手術成績 が良好であるかを調査する。
	【研究の方法】 後ろ向きにカルテベースで術日、症状発症日、性別、年齢、術眼、術式、 既往歴、眼軸長、タンポナーデ物質、円孔径、術後 face down positioning 時間、執刀医、術前から術後 1 年までの視力、術後 0CT 画像をカルテ情報 及び眼科外来に設置されている検査機械に保存されている検査結果を取得 し、検討します。 取得された情報は氏名、診療録 ID 等の個人識別が可能な記述は用いませ ん。
	【研究期間】 実施許可日 ~ 2026 年 05 月 31 日
	【利益相反の状況】 なし
	【研究結果の公表の方法】 学会発表および論文掲載を予定しています。
研究に用いる試料・情報	術日、性別、年齢、術眼、術式、既往歴、眼軸長、タンポナーデ物質、円
の項目と利用方法(他機	孔径、術後 face down positioning 時間、執刀医、術前から術後1年まで
関への提供の有無)	の視力、術後 OCT 画像を用いて術後閉鎖率について検討します。
	高山赤十字病院のデータも用いて検討します。
研究に用いる試料・情報	富山大学附属病院 病院長 山本善裕
を利用する機関及び機関	高山赤十字病院 病院長 竹中勝信
の長の職名・氏名	
研究資料の開示	研究対象者等(研究対象者および親族等関係者)のご希望により、他の研究 対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画

	書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者 (研究代表機関における 研究責任者の所属・氏 名)	富山大学学術研究部医学系 眼科学 教授 林篤志
研究対象者等(研究対象 者および親族等関係者) からの相談等への対応窓 ロ	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 富山大学附属病院(代電話 076-434-2315 眼科外来(内線 3710) または 076-434-7363 眼科医局 FAX 076-434-5037 E-mail ahayashi@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学附属病院 眼科 林篤志